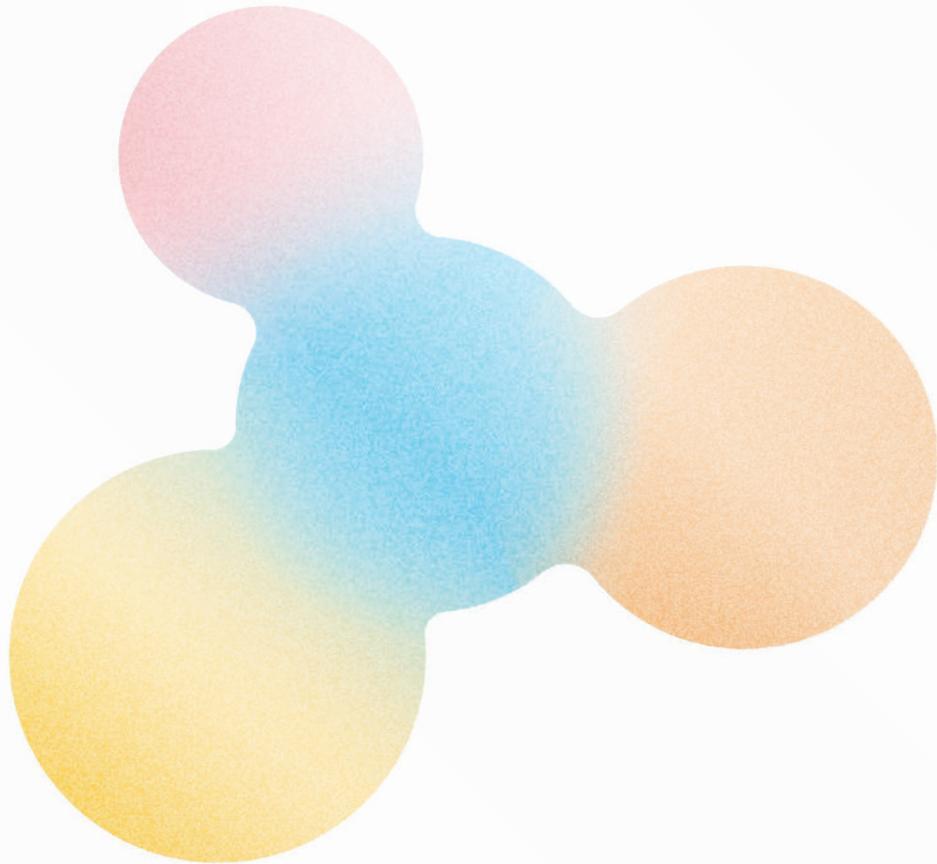


同志社大学

文化情報学部

Faculty of Culture and Information Science 2017



■ 文化資源学コース

■ 行動データ科学コース

■ 言語データ科学コース

■ データ科学基盤コース



KEYWORD 文化資源学

『源氏物語』は紫式部が
書いた本が
そのまま伝わっている？



KEYWORD 言語データ科学

地域ごとに
方言が違うのはなぜ？

興味を学びに。好奇心を学びに。
世の中の疑問を
データサイエンスで読み解こう

文化情報学で、答えが見えてくる！



KEYWORD データ科学基盤

未来を予測すること
ができる？



KEYWORD 行動データ科学

グループワークが
うまくいくための秘訣は？

A

KEYWORD 文化資源学

Q 『源氏物語』は紫式部が書いた本がそのまま伝わっている？

手で写されて伝わったから、いろいろな本によって言葉が違うことがある！

『源氏物語』にかぎらず、日本古典文学は、長い間、書き写されて伝わってきました。たとえば、友だちから授業ノートを借りて書き写すとき、つい書き間違ってしまうことがあるように、同じ『源氏物語』の写本であっても、中身が全く同じとは限りません。そこに、写本の中身を比較検討する必要性が生まれるのです。



同志社大学図書館蔵

A

KEYWORD 言語データ科学

Q 地域ごとに方言が違うのはなぜ？

人の移動経路など、さまざまな条件によってことばの伝わり方が異なるから！

ことばはまるで「生き物」のようにある地域から他の地域へと伝わっていきます。地形、人口密度、可能な移動手段など、様々な条件によって人の移動経路が異なり、ことばの伝わり方も変化しています。方言そのものの性質だけではなく、人の移動経路を辿ることによって、ことばの変化の過程を復元することができるのです。



新たな発見を生む 文化情報学部の ユニークな研究

あらゆる文化現象をデータサイエンスの手法でアプローチする文理融合型の学びを展開する文化情報学部。さまざまな学問分野の立場から考察することで、文化の新しい捉え方が発見できます。



KEYWORD データ科学基盤

Q 未来を予測することができる？

A

未来に絶対はありません。ただし、不確実性を伴った予測は可能です。

目的に応じて収集された、あるいは、蓄積されたデータを適切に処理し、データ科学の方法で分析することにより、一定の精度で未来を予測することは可能です。社会現象、自然現象などあらゆることが予測の対象ですが、意味のある精度で予測するためには、十分な量および質のデータ、適切な方法の選択などが重要です。



A

KEYWORD 行動データ科学

Q グループワークがうまくいくための秘訣は？

雑談とアイコンタクトです！

取り組むべき作業とは一見関係のない雑談をしたグループほど独創的なアイデアが生まれ、アイコンタクトをしながらディスカッションしたグループほど完成度の高い結果を得ることができました。人のふるまいをデータに基づいて分析することで、人が何気なく行っている行動のメカニズムをのぞき見ることができます。

領域の枠を超えた 文理融合型の学び

芸術から経済活動などの社会の動きまで人間の営みすべてを「文化」と捉え、データを収集し適切な理論で分析。自然科学の対象ではなかった「文化」を「データサイエンス」の手法で探究します。



文化現象の新たな姿を発見

文理融合の学びから身につく力

幅広い学問分野の 知識と柔軟な発想力

文化とデータサイエンスに関わる学問分野を幅広く学ぶことで、同じ文化現象に対して文理双方から多様な研究アプローチがあることを認識し、問題に対する柔軟な発想力を養うことができます。

文化に対する幅広い 知識に基づいた感性力

文化に対する幅広い知識を身につけることにより、様々な対象に対して文化的・社会的な背景をふまえて、その価値や可能性を適切に見極めることができる感性力を育てることができます。

データ分析能力と 論理的思考力

ジョイント・リサーチや卒業研究において、実験や調査により得られたデータを分析し、価値がある知見を筋道立てて考えていくことにより、データ分析能力と論理的思考力の両方が身につきます。

興味に応じて体系的に学べるカリキュラム群

文理融合型のユニークな科目で、柔軟な思考力や主体的に学問する姿勢を身につけます。
幅広い領域に触れることができる文理のバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

2017年度カリキュラム(予定)

		1年次		2年次		3年次		4年次		
		第1 Semester (学期)	第2 Semester	第3 Semester	第4 Semester	第5 Semester	第6 Semester	第7 Semester	第8 Semester	
必修科目	文理融合の考え方を身につける	文化情報学入門	文化情報学演習 1・2・3	文化情報学演習 1・2・3	アドバンスト・コロキアム	ジョイント・リサーチ I	ジョイント・リサーチ II	卒業研究 I	卒業研究 II	
	A群 文化クラスター科目群	文化資源学 科目	古典文学、考古学から 現代文化まで幅広く学ぶ	日本文化史 文化計量学入門 現代文化概論	歴史文化情報入門 文献学入門	歴史文化情報概説 文献講読	文献解析 伝統音楽論 美術史学 文化・社会人類学	歴史文化情報論 古典文化論 文化記号論 音楽解析	文化解析	
		言語データ 科学科目	多種多様なアプローチで 「ことば」に迫る	ことばの科学 ことばと文化	世界の諸言語 ことばと社会	言語研究の方法1 言語類型論 コーパス言語学	言語研究の方法2 音韻論	統語論 語用論	言語と脳科学 認知言語学	
		行動データ 科学科目	人間の身体や感覚、 行動の仕組み、 人間と社会の関わりを学ぶ	身体論	認知科学入門 人間と感性 社会調査入門	人間と文化 感覚・知覚論 社会調査法 計量社会学	視覚表現論 比較文化論 身体メディア論 社会調査演習	認知科学の方法 認知科学実習 行動計量分析法	認知システム論 社会ネットワーク分析	関心を持ったものが そのまま研究対象に なります!
B群 データサイエンス科目群	データ分析 科目	専門的な データサイエンスの 技法を学ぶ	データサイエンス入門 データサイエンス入門演習	データサイエンス基礎 データサイエンス演習	定量的データ分析 定量的データ分析演習	定性的データ分析 定性的データ分析演習	ベイズ統計 機械学習	テキストマイニング データハンドリング		
	基礎数理 科目	データ分析に必須となる 数理科学の基礎を学ぶ	数学入門 論理と数理 線形代数	離散数学 微分積分	確率・統計 微分方程式	数理統計 現象と数理 最適化法	多変量解析 数値解析 数理モデル	時系列解析 決定理論		
	情報・ コンピュータ 科目	コンピュータを用いて 情報やデータを処理する 技術を学ぶ	情報倫理 プログラミング入門	コンピュータの仕組み プログラミング基礎	情報理論 プログラミング応用	データベースシステム 情報セキュリティ	情報アクセス技術 アルゴリズムとデータ構造	ヒューマンコンピュータ インタラクション 翻訳解析		
C群	体験型教養科目	様々なテーマで 体験型の講義を展開 最先端に触れる講義も開講	文化体験/企業体験/海外体験/カレント・トピックス/ etc.							

コース配属・研究室配属



林 みなみさん
(3年次生)

カリキュラムのPOINT

01 文理のバランスが整ったカリキュラム

文理融合的な学びを実現するためには、いずれかに偏ることなく知識やスキルを得ることができる科目が提供される必要があります。本学部では、選択科目を文化とデータサイエンスという2つのクラスター科目群に分けて、それぞれの群で1年次における入門科目から3年次における発展科目まで数多く開講しています。

02 4年間を自分でデザインできる

必修科目ができるだけ少なくなるような形でカリキュラムが作られているため、興味・関心に応じて4年間どのように学んでいくかを自分自身でデザインすることができます。一方で、1年次に幅広い学問分野の入門科目を履修する中で自分の興味・関心を明確にして2年次以降につなげていくこともできます。

03 グループで取り組む探求型の学び

ジョイント・リサーチでは、様々な文理融合的なテーマに沿ってクラスが編成されています。関連した知識やスキルの習得を行うだけでなく、グループ単位で一から研究に取り組んでいきます。知的な作業を進める中でのコミュニケーションを通して、物事に対する多様な視点を身につけることができます。

04 専門知識を深める4コース制度

3年次に進級する段階で、「文化資源学」「言語データ科学」「行動データ科学」「データ科学基盤」という4つのコースのいずれかに分属されます。これらは「文化情報学」の柱であり、分属までに学んできた知識やスキルをふまえて、より自分自身の専門性を意識しながら卒業研究に向けて取り組むことができます。

文理融合型のユニークな科目

文理融合型の思考力を1年次から段階的に習得する必修科目や、感性と教養、国際感覚を磨く実践的な専門科目についてご紹介します。

必修 文化情報学演習

「文化を科学する」ための、 基礎的な知識と技術を体験的に学ぶ

文化情報学部における文化資源、言語、行動、データ基盤の4コースについて、ジョイント・リサーチや卒業研究を進めていくために必要となる基礎的な知識と方法をグループ単位による演習形式で学びます。「文化を科学する」ためには、対象となる文化現象およびデータサイエンスの手法について講義を受け、知識を得るだけでなく、実際に探求を進めながら議論し、考えていく必要があります。それぞれの研究領域において、どのような探求活動がこれまでになされてきたかを踏まえ、文化現象に関わるデータを収集・計測する手順を理解し、どのように実験・調査を進め、得られたデータを分析することができるのか、実践を通して学んでいくことが重要です。



文化情報学演習1

文化・言語現象を対象とし、基礎的な探究型演習を行います。グループ単位での演習を通じて、先行研究・参考文献の探索、文献の読み方、興味深い現象の見方やデータ収集・分析方法などを学び、調査結果を論理的にまとめ、発表し、レポートを作成します。

文化情報学演習2

人間の行動や社会に関わる現象を対象とし、基礎的な探究型演習を行います。グループ単位での演習を通じて、先行研究・参考文献の探索、文献の読み方、興味深い現象の見方やデータ収集・分析方法などを学び、調査結果を論理的にまとめ、発表し、レポートを作成します。

文化情報学演習3

ジョイント・リサーチ、卒業研究の実施に向けて、実際に統計解析ソフトウェアを使用した基礎的なデータ解析の方法を習得します。データの要約・視覚化、データサイエンスによる具体的な解析の手法および解析結果の解釈の仕方やレポート作成の方法を学び、データを適切な方法で集計・解析し、レポートする能力を養います。

必修 コロキアム／アドバンスト・コロキアム

年次の垣根を超えた知的交流の場

コロキアムとは「研究会」「討論会」などを示す語で、4年次生が卒業研究の中間発表を行い、1年次生と2年次生が共に学ぶ場となっています。2年次生は、1年次生との発表に関する議論を建設的な方向に導く役割を担い、議論の中で生み出された質問やコメントを1年次生と一緒にを行います。上級生にとってはプレゼンテーション力向上のきっかけになり、下級生にとっては卒業研究の進め方を具体的にイメージする貴重な機会になります。学年を問わず同じ場で学習することは互いにとって大きな刺激になり、人間的な成長の場にもなっています。



必修 ジョイント・リサーチ

共同研究で切磋琢磨し、 学問の醍醐味を知る

文化情報学演習において習得した文化の知識と「文化を科学する」ためのデータサイエンスのスキルを基に、文理融合的なテーマごとに編成されたクラスに分かれ、グループ単位でレベルの高い演習を行います。各研究室に所属された中で、4年次の卒業研究でどのようなテーマに取り組んでいくかを視野に入れ、より専門的な観点から研究の基礎を学ぶことになります。グループ単位で議論を重ねていくことにより、得られたデータから問題を発見し、実験・調査を通して分析を行い、意味のある知見や解決法を導き出すことができるようになり、学問の面白さを実感できるはず。同時に、グループ内での議論や協力関係の構築は、アカデミックな知的コミュニケーションを行うためのスキルの習得にもつながり、卒業研究を含めた様々な場面で他者の視点からも物事を考えていくことができるようになります。

開講テーマ(例)

情報科学技術を用いた 日本古典文学の文字列解析

『源氏物語』などの古典文学作品は、「書写」によって現在まで伝わっています。この書写という人間の行為は、誤字や脱字はもちろん、意識的な改変までも引き起こします。例えば、物語の途中で死んでしまったお姫さまを生き返らせたいと思ったことはありませんか？さすがに『源氏物語』のような完成度の高い作品では、物語の展開が大きく変更されることはないようですが、そんな書写者の「念願」が、同じ物語でも、様々なテキストを生み出すことがあるのです。これらのテキストの比較・分類には、独自に開発した文字列解析ツールや「Splits Tree」による分析がきわめて有効です。



言語フィールドワーク演習

言葉は「生き物」なので、本やインターネットにある言語資料だけでは不十分。調査対象となる言語を話している地域に実際に出かけて、母語話者に直接会ってインタビューをしなければならないことがあります。しかし、分析に必要な言語データを母語話者から引き出すためには、言語学的なテクニックが必要です。この演習では、グループで扱う言語現象を決定し、調査対象とする言語の母語話者をゲストとして招き、インタビュー調査を体験してもらいます。調査演習を通じて母語話者から言語データを引き出すテクニックを学び、データを正しく分析することができるようになります。



認知のクロスモーダル性から 文化を考える

文化がどのように生み出され、継承されるのか理解する上で、身の回りにある文化現象がどのように認知されているのか考えてみる必要があります。例えば、スーパーでオレンジジュースを購入する際、パッケージの色は購買意欲にどのような影響を与えているのでしょうか？実験協力者に様々な色のペットボトルでオレンジジュースを飲んでもらい、その味覚を評価してもらおうと、たとえ同じオレンジジュースでも、ペットボトルの色によって味が違っていると感ぜられることがあります。このように、味覚評価の結果を解析すると、視覚と味覚の関係を明らかにできるのです。



体験型教養科目

この科目群では、外部からの招聘講師による体験的な講義や実際に現地に出向いての現場体験など、通常の講義では得られない様々な形での体験を通して、広い意味での教養を身につけることを目的としています。文化体験・企業体験・海外体験など様々な体験型講義が開講されています。合わせて、科学技術や社会・文化に関する最先端の話題についての講義も開講されています。

文化体験科目

各界の第一線で活躍する学外講師に学ぶ

伝統文化、現代文化など様々なジャンルの文化について、伝承者を始めとする第一線の講師を招き、実際に“文化に触れる”講義を展開しています。

京都の伝統文化

京都には、演劇・音楽・舞踊をはじめとする伝統芸能が息づいています。また、茶道・華道や京料理・京菓子など、京都ならではの文化も豊かです。これら伝統的な芸能と文化との特質を、その伝承に実際に携わる様々な分野の専門家の話を中心に、多角的・重層的に講義します。

「わざ学」のすすめ

明示的な知の背後にある意識化・言語化されないはたらきとしての「わざ」を理論的、科学的、総合的に解明するための学問としての「わざ学」について講義します。様々な分野で活躍している「わざ」に卓越した講師陣を招聘します。



講師例	
■ 千宗屋氏 (武者小路千家 家元後嗣)	■ 佐野 登氏 (宝生流能楽師シテ方)
■ 池坊 由紀氏 (華道家元 池坊次期家元)	■ 畑 正高氏 (香老舗 松栄堂主人)
■ 栗栖 正博氏 (たん熊北店 代表取締役社長)	■ 山口 富蔵氏 (京菓子 末富社長)

企業体験科目

企業現場から講師を招聘／企業現場を体験

企業から招聘した講師による講義、企業におけるインターンシップなど大学と企業が協働する様々な形での講義を企画しています。

日系企業のグローバル戦略

グローバルに展開する日系企業および日本とドイツの産業振興に関わる団体から講師を招き、グローバル企業における海外ビジネスの現状や課題などについて講義を行います。国内・海外におけるインターンシップや企業から見たインターンシップの意義についても解説し、キャリア形成につなげます。

IT関連企業提供講座

データドリブンな現場から産み出されるIT関連企業の様々なサービスを基に、課題解決への取り組みを交えながら最前線のインターネットテクノロジーを教えます。このことにより、通常の大学の講義では触れることのできないAI、IoTといった企業の取り組み事例を学びます。



講師派遣予定企業・団体
日独産業協会、タカタ株式会社、株式会社竹中工務店、キャン株式会社、日産自動車株式会社、ダイキン株式会社、全日本空輸、アルプス電気株式会社、豊田通商株式会社、ヤフー株式会社 など

海外体験科目

世界で活躍するための 広い視野と国際感覚を養う

正課科目としての2週間の短期留学プログラムです。留学経験のない1年次生から海外で研究に挑む意欲のある4年次生まで、文化情報学部生を対象とした3種類のプログラムを用意しています。舞台はアメリカのルイジアナ州とニューヨーク州、ドイツのデュッセルドルフです。グローバルに活躍する将来に向けた第一歩となるでしょう。

ハインリッヒ・ハイネ・デュッセルドルフ大学(ドイツ)

プログラム名 Project-based Independent Short Program Heinrich Heine University Dusseldorf
対象 2～4年次生

デュッセルドルフを拠点に「日本文化および欧州文化」についての研究を目的としたプロジェクト型インディペンデントスタディーを実施。「特別講義—海外企業体験—」合同研修に参加した後、文化体験および各自の計画に従ったプロジェクトの遂行・資料収集やアンケート調査などを行います。

カレント・トピックス

科学技術や社会・文化などの 最先端のトピックスに触れる

日々変化する科学技術や社会・文化などの様々な話題について、学部内外の講師陣が紹介します。

ニューオーリンズ大学(アメリカ)

プログラム名 Doshisha Open Doors Program: Exploring New Orleans Culture
対象 1～3年次生

アメリカ南部のルイジアナ州最大の都市であるニューオーリンズ市に位置するニューオーリンズ大学への短期留学です。留学経験のない学生を対象としており、語学研修プログラムに加え、ゲストレクチャーや近隣の文化施設などのフィールドトリップなどを中心とした異文化体験プログラムを実施します。

ハミルトン大学(アメリカ)

プログラム名 Project-based Independent Short Program in Hamilton College
対象 4年次生

リベラル・アーツ・カレッジであるハミルトン大学にてプロジェクト型インディペンデントスタディーを実施します。語学研修、アメリカの文化体験および各自の計画に従ったプロジェクトの遂行・資料収集やアンケート調査などを行います。デジタルヒューマニティーズ(知的資源の保存)のワークショップにも参加します。



環境と情報

地球環境問題とその人間社会との関係を理解することは、科学技術分野だけでなく人文学や社会学においても重要な課題です。特に自然環境と生活環境の変化、環境についての人間の意識のありかたを理解することは、21世紀の新しい文化を創造するための基盤となります。この講義では、地球環境の変動や生活環境の変化、環境に対する人間の意識に関する最新の研究事例を紹介し、環境と人間との関わりから生まれる文化について考察します。

充実の学びサポート

01 アドバイザークラス

教員一人あたり約10人の学生を担当

一人ひとりの学生の学業や学生生活、就職などをサポートするため、「アドバイザークラス」を設置。1クラス(10名程度)を一人の教員が担当し、あらゆる相談にのりアドバイスを行います。このクラスは4年間変わらず、時には親睦のための食事会なども開催されるため、教員・学生のつながりも自ずと深まります。



02 オフィスアワー

専門的な質問に、教員が直接対応

授業科目や研究分野など、専門的な内容を担当教員に質問・相談したい人のために、週1回の面会時間を設けています。アドバイザークラスの担当教員以外でも相談可能です。1年次から様々な分野の教員と交流することで、自らの知見を広げられます。



03 個別相談コーナー

授業の不明点をすぐ質問できる

数学やプログラミング、データサイエンスなどの科目に関連する個別相談コーナーを設けています。上記の開室時間は専門スタッフが常駐し、授業で分からなかった箇所や理解しにくかったところ、課題などについて、マンツーマンで質問や相談に応じます。



04 数学の補習講座

文系出身者の苦手分野をフォロー

文系出身で数学が苦手な方のために、補習講座を設置しています。データサイエンス入門や数学入門などの科目の理解を深めたい学生に基礎から丁寧に教えます。



有機的につながりながら、 それぞれの専門性を磨く4コース

「文化資源学」「言語データ科学」「行動データ科学」「データ科学基盤」という4つのキーワードからコースが構成される文化情報学部。これら4分野が連携し、学際的かつ革新的な知の創造を目指します。学生たちは所属するコースで専門知識を身につけながら、多彩な学問領域に触れ、柔軟な発想力を養います。

言語データ科学 コース

言語現象の解明に取り組み、
「言語を科学する」研究の新領域を開拓

データ科学基盤 コース

数理・情報・統計の壁を越えた
最先端のデータ科学研究を展開

行動データ科学 コース

人間の行動様式を文化と捉え
分析し、予測・デザイン

文化資源学 コース

断片的で大量の文化資料情報をデータ化し
文化研究の新たな枠組みを構築



P.15

Cultural Resources Studies Course

文化資源学コース

研究対象 >>

文学、歴史、美術、音楽 etc.

人間の社会には、時代や地域ごとに文化があります。その文化を探究するための文献や遺物などの資料が文化資源です。本コースでは、実資料のデータを網羅的に収集し、それらの情報をデジタル化したり、数理的手法によって分析したりすることによって、文化の本質に迫っていきます。

[卒業研究テーマ例]

- 藩邸から見る近世都市京都の変遷
- 『伊勢物語』諸本の系統学的考察
- イスラム文化と都市構造比較
- 法華宗寺院に見る戦国時代の京都
- 『百人一首像譜抄』の歌意絵一上方版と江戸版の比較一

[進路イメージ]

- IT
- 出版
- 学芸員
- 社会科教諭
- 大学院進学

P.17

Linguistic Data Science Course

言語データ科学コース

研究対象 >>

言語、文章(テキスト)、コミュニケーション etc.

私たちは当たり前のようにことばを使って生活していますが、母語話者でもなぜそうになっているのか説明できない現象が数多く存在します。言語データ科学コースでは、ことばに関するデータを収集・分析する方法を学び、ことばを話す人間やことばを取り巻く文化・社会の本質を明らかにします。

[卒業研究テーマ例]

- 対面会話とLINE会話の比較分析
- 中国方言「しよる」と「しとる」に新たな意味機能について
- 観光地レビューを用いた特徴語の日英比較
- 日本語における省略の統括構造
- 大学生における親しい上下関係の敬語意識に関する研究

[進路イメージ]

- 広告・出版・マスコミ
- ソフトウェア・通信
- メーカー
- 社会科・数学科教諭
- 大学院進学

P.19

Behavioral Data Science Course

行動データ科学コース

研究対象 >>

パフォーマンス、身体、心理、社会現象、宗教 etc.

私たちが日常的に行っている何気ないふるまいは、人が長年において蓄積し、受け継いできた文化そのものと捉えることができます。本コースでは、文化や社会のしくみによって規定される人の行動傾向を、定量的なデータに基づいて客観的に記述・モデル化することで、人々の行動を理解したり、デザインするための方法を学びます。

[卒業研究テーマ例]

- パッケージデザインが味覚的印象に与える影響
- 女性ファッション誌におけるレイアウト・デザインの図表現機能
- 現代社会におけるアイドルとファンの関係性
- 大学生の音楽試聴行動の実態分析
- 手品における認知的方略が行動に及ぼす影響

[進路イメージ]

- メーカー
- コンサルティング
- マスコミ・情報通信
- 社会科・数学科教諭
- 大学院進学

P.21

Foundational Data Science Course

データ科学基盤コース

研究対象 >>

数理学・情報科学・統計学の諸概念、データに関わる諸問題 etc.

データ科学基盤コースでは、あらゆる課題をデータサイエンスの手法を用いて解決するための、数理学、情報科学、統計学の基盤的知識および技能を習得します。卒業研究では、それらの知識・技能に基づき、新たな知見の獲得、新たな方法の開発、具体的な課題の解決に取り組めます。

[卒業研究テーマ例]

- 量質混在3相3元データに対する非階層的クラスタリング法
- 記述的多変量解析法の統一的記法について
- 囚人のジレンマゲームによる空間ゲームの解析
- トレースの格納とその問合せ処理に関する研究
- 情報要求を満たさない文書判別モデル構築に関する研究

[進路イメージ]

- データアナリスト
- データエンジニア
- データコンサルタント
- 数学科教諭
- 大学院進学

26の研究室MAP

3年次から4つのコースおよび研究室に配属され、4年次の卒業研究に向けて自らの専門性を高めます。文理の枠を越えた多彩な領域を専門とする教員陣のもとで、自分の興味にあった研究に取り組みます。



**文化資源学
コース**
P.15

歴史文化情報研究室
鋤柄 俊夫 教授
Toshio SUKIGARA

日本文学研究室
福田 智子 准教授
Tomoko FUKUDA

文化科学研究室
矢野 環 教授
Tamaki YANO

**時空間情報科学・
行動計量学研究室**
津村 宏臣 准教授
Hiroomi TSUMURA

音文化研究室
柳沢 英輔 助教(有期)
Eisuke YANAGISAWA

人文情報学研究室
河瀬 彰宏 助教
Akihiro KAWASE

**言語データ
科学コース**
P.17

言語記述研究室
山内 信幸 教授
Nobuyuki YAMAUCHI

言語生態研究室
沈 力 教授
Li SHEN

データサイエンス研究室
金 明哲 教授
Mingzhe JIN

言語資源研究室
伊藤 紀子 准教授
Noriko ITO

理論言語学研究室
星 英仁 准教授
Hidehito HOSHI

**行動データ
科学コース**
P.19

認知行動科学研究室
杉尾 武志 教授
Takeshi SUGIO

比較文化研究室
田口 哲也 教授
Tetsuya TAGUCHI

身体メディア研究室
阪田 真己子 准教授
Mamiko SAKATA

視覚表現研究室
下嶋 篤 教授
Atsushi SHIMOJIMA

**現代社会学・社会史
研究室**
石岡 学 助教(有期)
Manabu ISHIOKA

計量社会学研究室
鄭 躍軍 教授
Yuejun ZHENG

**Cultural Human-Computer
Interaction Laboratory**
杉本 裕二 教授
Yuji SUGIMOTO

感性情報心理学研究室
大塚 幸生 助教(有期)
Sachio OTSUKA

**データ科学
基盤コース**
P.21

数理科学研究室
浦部 治一郎 教授
Jiichiro URABE

数理モデル研究室
川崎 廣吉 教授
Kohkichi KAWASAKI

統計科学研究室
宿久 洋 教授
Hiroshi YADOHISA

メディア情報学研究室
波多野 賢治 教授
Kenji HATANO

数理推論研究室
原 尚幸 准教授
Hisayuki HARA

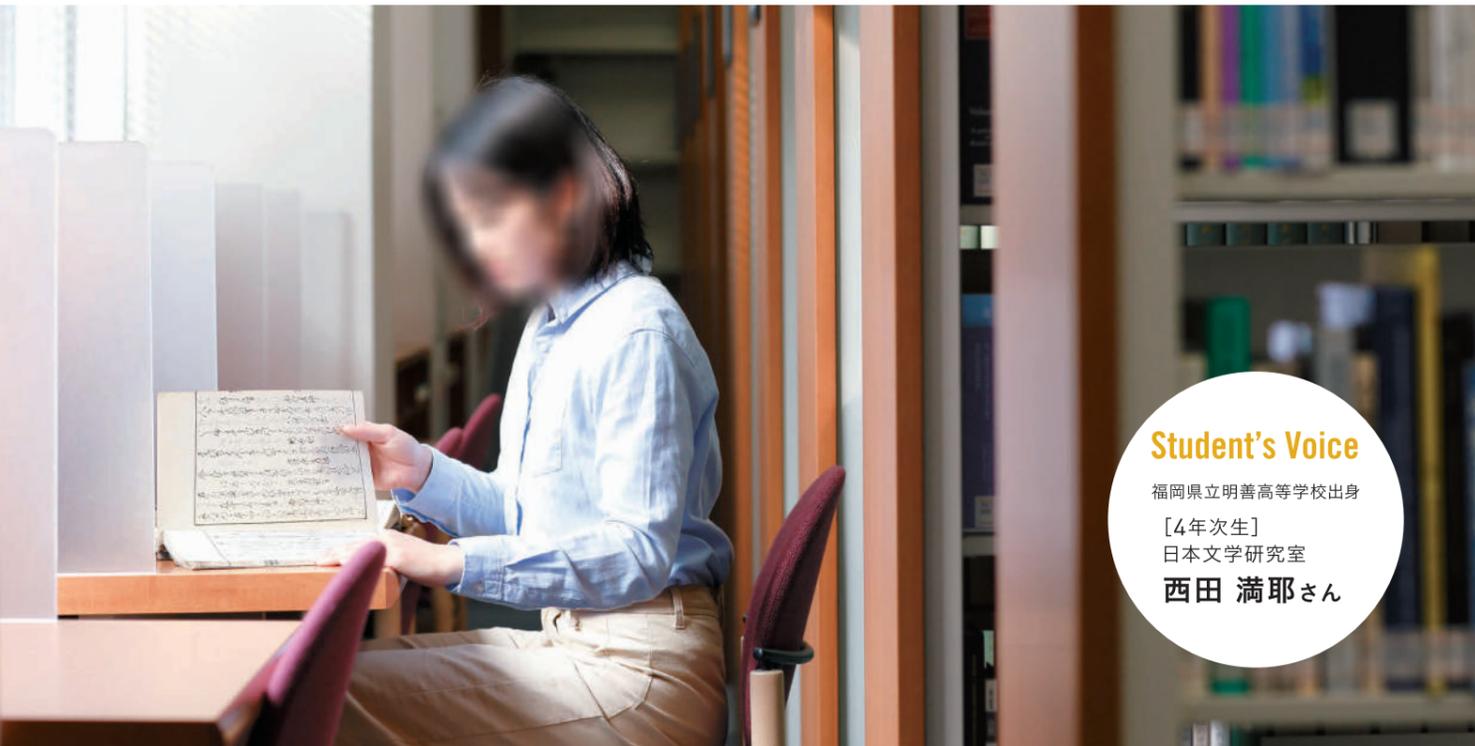
計算情報学研究室
深川 大路 助教
Daiji FUKAGAWA

数理統計研究室
玉谷 充 助教(有期)
Mitsuru TAMATANI



研究対象 文学、歴史、美術、音楽 etc.

断片的で大量の文化資料情報をデータ化し文化研究の新たな枠組みを構築



Student's Voice

福岡県立明善高等学校出身
[4年生]
日本文学研究室
西田 満耶さん

未知の分野へ 挑戦する楽しさを知った

京都という土地に身を置き、日本庭園など自国の文化に直接触れたうえで、グローバルに活躍したい。そんな願いを抱いていた私にとって、「人間の営みすべてを文化と捉える」という文化情報学部の理念は、心惹かれるものがありました。入学当初は初めての土地でどうしてよいか分からず、戸惑いや不安もありました。そんな中で、先生と学生とが意見を交わし、自由に研究テーマを決めるスタイルは、私の不安を取り払ってくれました。データサイエンスなどの理系の専門科目や、教職課程の科目を履修するうちに、これまで意識していなかった分野や事象にも目が行くようになり、大きく視野が広がったと感じています。

自ら動けば、得るものも多い。 能動的な姿勢を呼び起こしてくれた

卒業研究のテーマは、藤原定家。百人一首の編纂をはじめ、歌人として有名ですが、私はいま、定家が詠んだ和歌を中心に学んでいます。多様で複雑、かつ曖昧な文化を解き明かすには、データサイエンスの手法を用いるのが有効。情報収集、分析、判断が合理的になり、研究成果を発信する時にも説得力が生まれます。研究に取り組んだ結果、文理両面の視点を得られたのは大きな収穫でした。それを可能にする設備、例えば、膨大な数の和歌が収められたデータベースが、本学部には整っています。学内外を問わず、「やりたい!」という純粋な気持ちに従い、どんなことにもチャレンジしてみてください。

大手メーカーに内定!!

西田さんが卒業研究テーマを決めるまで

詳細はホームページをCheck! >>
<http://www.cis.doshisha.ac.jp/course/culturalresources/student/model/index.html>



1年次 言語やコミュニケーションに関する科目を中心に履修

	mon	tue	wed	thu	fri
1	建学の精神とキリスト教	コミュニケーション・イングリッシュ			アナリティカル・リーディング
2	スポーツ・パフォーマンス	現代文化概論		人間と社会	
3	コリア語入門	データサイエンス入門	コリア語入門	生命の科学	文化と認知
4	文化計量学入門			身体論	
5			文化情報学入門		

2年次 教職課程の授業が増えるとともに、データ分析の手法を学ぶ

	mon	tue	wed	thu	fri
1			文化情報学演習		
2		比較文化論		ジャーナリズム概論	発達と学習の心理学
3	生徒・進路指導の理論と方法	西洋文化史概説		美術史学	地理歴史科教育法
4	地理学総論	東洋文化史概説		イングリッシュ・セミナー	イングリッシュ・ワークショップ
5	人文地理学				

3年次 ジョイント・リサーチなど、グループ単位での学びが多くなる

	mon	tue	wed	thu	fri
1		伝統音楽論		道徳教育の理論と実践	
2	日本文化史概説	学校カウンセリング	ジョイント・リサーチ		
3	宗教学概論	音楽解析	キリスト教とは何か		法学
4	アドバンスト・コロキアム	経済学			社会科・地理歴史科教育法
5	地誌学	トピックス			

[教員紹介]

研究分野 日本考古学、文化史学

鋤柄 俊夫 教授

全国の平安時代終わりから江戸時代の、さまざま遺跡や遺物や地名や地理や、そして絵画資料などの情報も総合し、歴史と文化の研究をしています。



研究分野 数理文献学、茶花香芸道論、応用多変量解析

矢野 環 教授

古典文献(例えば源氏物語)は、様々な写本が残っています。文献学的手法で写本群の歴史的経過を逆に辿り、紫式部が書いた元の文章に近づくことができるか。この手法は文学に限らず実行可能です。



研究分野 和歌文学、平安文学

福田 智子 准教授

『古今和歌集』『伊勢物語』『源氏物語』などの平安文学を対象に、伝本(現在まで伝わっている本)間の本文の違いや、表現の特徴、絵画化の問題について研究しています。



研究分野 時空間情報科学、人類学

津村 宏臣 准教授

人類の行動とその痕跡を丹念に調査し、過去と未来と現在をつなぎながら人類と社会の本質に迫ります。活躍の舞台は世界です!



研究分野 デジタルヒューマニティーズ、統計科学

河瀬 彰宏 助教

文化現象(音楽、文学、人々の行動様式など)に隠された法則を情報学や統計学の方法論を使って記述し、分かりやすいかたちで表現することを目指しています。



研究分野 音文化研究、映像人類学

柳沢 英輔 助教(有期)

音楽、自然音、環境音などあらゆる「音」からそれぞれの地域を持つ「文化」を捉えようとしています。ベトナム、京都、沖縄などでフィールドワークを行っています。

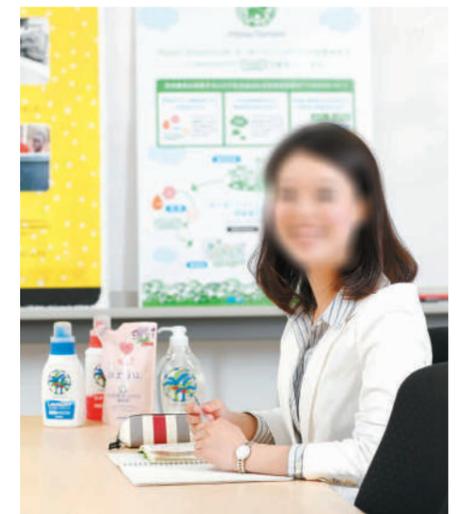


OB・OG MESSAGE

好奇心のうえに、データと文化を重ね、世界中に笑顔届けたい。

サラヤ株式会社 海外事業本部 兼 京都営業所 食品衛生部
竹本 咲良さん 2014年度卒業

学部を卒業後、文化情報学研究科を経て、化学メーカーに就職しました。現在は洗剤やマスクなど、食品衛生・公衆衛生に関わる商材の営業を行っています。本学部で学んで良かったと思うのは、定量的、定性的な視点から物事をひも解き、解決策を提示する手法が身についたこと。現職では、所属している営業所の経営数字について、土地が持つ特性と、客観的な売上データ、その両面からの分析・提案を任せられました。私のモットーは「置かれた場所で咲く」。まずは3年間、国内で知識・スキルを蓄え、いずれは世界に飛び出し、その場所で自分を咲かせたい。そして、周りの人、ひいては世界中に幸せが広がると嬉しいのです。





研究対象 言語、文章(テキスト)、コミュニケーション etc.

言語現象の解明に取り組み、「言語を科学する」研究の新領域を開拓



Student's Voice

大阪府立池田高等学校出身
[4年次生]
理論言語学研究室
中野 隆章さん

幅広く学ぶ中で興味を抱いた 「新しいことばが生まれること」

文系科目を幅広く学ぶだけでなく、統計学をベースとした研究ができることに魅力を感じ、入学を決めました。能や華道、浮世絵、京料理など日本の伝統文化を学ぶ「体験型教養科目(旧トピックス)」という授業や経済学系の授業など、学びの幅広さを実感。統計やデータサイエンスには苦手意識がありましたが、1年次から体系的に学ぶことができるので、しっかり理解できました。いろいろなと学ぶ中で、言語学の面白さに惹かれ、「ことばを科学する」研究室を選択。「若者語」や「流行語」など、新しいことばが生まれるメカニズムや規則性を、アンケート調査やことばのデータベースであるコーパスなどを用いて研究しています。

データ分析による客観的事実から 論理的に考える力が身についた

大手
保険会社
に内定!!

例えば、コピーすることを「コピる」と言うように、動詞化する接尾辞「る」をつける現代若者の造語法があります。この「る」が付随する語としない語にはどんな違いがあるのか、アンケートや先行研究を基にデータベース作りを進めています。コミュニケーションツールとして身近で、普段意識せずに使っている「ことば」を、データ分析を基に考え明らかにしていくうえで、論理的思考が身につきました。就職が決まった金融業界は、自分自身の思考力や行動力で勝負する世界。お客様のニーズを分析し、自分にしかできない提案ができるよう、身につけた力を発揮したいと思います。

中野さんが卒業研究テーマを決めるまで

詳細はホームページをCheck! >>
<http://www.cis.doshisha.ac.jp/course/linguisticdata/student/model/index.html>



1年次	mon	tue	wed	thu	fri
1		コミュニケーション・イングリッシュ			アナリティカル・リーディング
2	プログラミング入門			人間と社会	
3	ロシア語入門	データサイエンス入門	ロシア語入門		文化と認知
4	文化計量学入門	データサイエンス入門演習		身体論	ことばの科学
5			文化情報学入門		

2年次	mon	tue	wed	thu	fri
1			数学入門		
2		イングリッシュ・セミナー			社会調査法
3		言語研究の方法1	社会学概論		言語研究の方法2
4			社会学概論		身体メディア論
5			イングリッシュ・ワークショップ	文化情報学演習	

3年次	mon	tue	wed	thu	fri
1			歴史文化情報入門		
2	アドバンス・コロキウム		翻訳解析		
3	身体認知論	言語コミュニケーション論			
4		ジョイント・リサーチ		行動計量学	
5			トピックス		

[教員紹介]

研究分野 統計科学、データサイエンス

金明哲 教授

研究対象の特徴をデータにまとめ、そのデータを科学的な手法で分析し、データに潜んでいる情報を見つけ出し、新しい発見あるいは問題の究明・解決を目指しています。



研究分野 一般言語学、言語類型論、日中対照言語学

沈力 教授

自然言語のさまざまな現象に隠された法則を数理的手法に基づいて発掘し、さらに、発掘された複数の法則を支配する共通の原理を解明する研究を目指しています。



研究分野 英語学・言語学、コーパス言語学

山内信幸 教授

英語や日本語の記述・分析を通して、ことばについての不思議やこだわりを突き詰める柔軟な視点や真摯な態度さえあれば、あなたも立派な「言語学者」の卵です!



研究分野 言語理論

星英仁 准教授

普段から意識せずに話していることばを「記号列」と捉え、記号列を持つ構造を分析し、可能な(文法的な)記号列のみを生み出すことばのメカニズムを研究しています。



研究分野 機能言語学、自然言語処理

伊藤紀子 准教授

ヒトと自然な会話ができるロボットの実現を目指して、私たちが普段どのようにコトバを用いてコミュニケーションを行っているのか、その仕組みを研究しています。



OB・OG MESSAGE

文理にとらわれず、多彩な個性が融合する 自由な環境が、私を大きく成長させてくれた。

滋賀県立長浜高等学校 教諭(数学)
久保 志帆さん 2013年度卒業

目標だった高校の数学教師になって3年目。現在は3年生の担任として、できる限り生徒と関わり、みんなが笑顔で過ごせる学校にしたいと尽力しています。文化情報学部での4年間で私が得た最大の収穫は、自分が驚くほど変わったこと。分野の壁を超え、将来の夢も価値観もさまざまな学生が、協力して主体的に学ぶ環境。それは、私が閉じこもっていた画一的で小さな世界を、一気に解放してくれました。今、教師として、十人十色の個性を持つ生徒に正面から向き合えるのは、こうしたベースがあるから。言語系の研究室で、文理をバランスよく学べたことも、多様な進路を目指す生徒たちの指導に生きてると痛感しています。





研究対象 パフォーマンス、身体、心理、社会現象、宗教 etc.

人間の行動様式を文化と捉え分析し、予測・デザイン



Student's Voice

奈良県立奈良高等学校出身
[4年次生]
身体メディア研究室
松林 利奈さん

多種多様な興味に応えてくれる 自由な学びの環境がある

中学校、高校時代に経験した友人関係をきっかけに、コミュニケーションの研究に関心を持つようになりました。進学にあたって文化情報学部を知り、直感で「面白そう」と思ったのが入学の決め手。文理融合だからこそ、多彩な科目を履修でき、教養教育科目の枠も大きく、時間割を自由に組めるのが魅力です。大学ならではの、興味をそえられる科目がたくさんあり、1・2年次ではかなり欲張って履修しました。現在は「身体メディア研究室」に所属しています。人と人とのコミュニケーション、特に「話し手」と「聞き手」が相手をどのように意識しながら会話を進めていくのかという問題に関心を持ち、会話実験からコミュニケーションメカニズムの解明を目指したいと考えています。

コミュニケーションについての学びを システムエンジニアの仕事で生かしたい

大手IT企業に内定!!

文化情報学部ではインターネット技術やプログラミングなど、情報やシステムに関する授業が多数あり、受講するうちにIT業界への興味も増してきました。情報やシステムが人々の生活を管理し、動かしている今の世の中で、さらに技術革新が期待される業界。そこに身を置き、世の中をもっと便利にするような、新しい価値やものづくりに携わってみたいと思います。就職活動ではIT業界の技術職を志望。会社説明会で話を聞き、技術職であるSE(システムエンジニア)も、実際にはコミュニケーション能力の高さが必須だと知りました。顧客のニーズを聞き取り、チームでシステムを構築していく仕事に、大学での学びを活かせるかと確信しています。

松林さんが卒業研究テーマを決めるまで

詳細はホームページをCheck! >>>
<http://www.cis.doshisha.ac.jp/course/behavioraldata/student/model/index.html>



1年次 興味のある認知系を中心に 文理バランスよく履修

	mon	tue	wed	thu	fri
1	文化情報学 演習	コミュニケーション イングリッシュ		スポーツ パフォーマンス	アナリティカル リーディング
2	トピックス	プログラミング 基礎	数学基礎	生命の 科学	データサイエンス 基礎
3	コリア語 入門	トピックス	コリア語 入門	人間と 感性	データサイエンス 演習
4	コロキアム	認知科学 入門		身体論	
5					

2年次 卒論でも必要となる 統計の知識を意識して学ぶ

	mon	tue	wed	thu	fri
1			データ サイエンス		
2	定量的 データ分析	イングリッシュ ワークショップ	情報と 社会		社会 調査法
3	定量的データ 分析演習	数学	地球と宇宙 の科学	イングリッシュ セミナー	アルゴリズムと データ構造
4		感覚・ 知覚論		社会調査 入門	身体 メディア論
5				文化情報学 演習	

3年次 ジョイント・リサーチでは会話コミュニ ケーションに関する実験を行う

	mon	tue	wed	thu	fri
1	時系列 解析	インターネット 技術	認知科学 の方法		
2	宗教学	ジョイント・ リサーチ	認知科学 実習		
3		倫理学		ヒューマン コンピュータ インタラクション	
4	数理 モデル			心理データ 解析	
5					

[教員紹介]

研究分野 認知科学、数理論理学

下嶋 篤 教授

地図やグラフ、イラストなどの図表現が、それを使う人の思考や判断にどのように影響するか。この問題を、数理論理学と認知科学の二つの観点から研究しています。



研究分野 ヒューマン・コンピュータ・インタラクション

杉本 裕二 教授

ヒトがコンピュータシステムを使って、文化を効率的・効果的に表示・加工・生成等するために、それぞれの文化に適したインタフェース装置等の研究をしています。



研究分野 認知心理学、認知科学

杉尾 武志 教授

人間がポスターやパッケージなどの様々な視覚文化をどのようにとらえているかについて、実験的手法を中心にその認知メカニズムを明らかにしていきます。



研究分野 文化比較、現代英語圏文学、ジャパノロジー

田口 哲也 教授

世界には様々な文化がありますが、欧米のキリスト教文明を基礎にした文化がアジアにどのような影響を与えたかを現代的、かつグローバルな視点から研究しています。



研究分野 計量社会学、統計科学

鄭 躍軍 教授

人間社会の仕組み、人びとのもの見方・考え方や行動様式についての謎を、個人の直感でなく、客観的な調査データの設計・収集・分析を通して、計量的に解いています。



研究分野 認知科学、身体メディア論

阪田 真己子 准教授

私たちは、「言葉」で語るより多くのことを「身体」で語っています。身体を手がかりとして、人と人がどのような情報をやりとりしているかという問題を研究しています。



研究分野 教育社会学、歴史社会学

石岡 学 助教(有期)

近代日本社会において、人々は「試験」をどのようにとらえてきたのか。その解明を通じて、日本社会の「能力」に対する価値観を読み解く研究をしています。



研究分野 認知科学、実験心理学

大塚 幸生 助教(有期)

人が日常生活で見ているような風景、環境に含まれる規則性(時系列情報、空間配置情報)、感情、美術作品などをどのように認知しているのかという問題について研究しています。



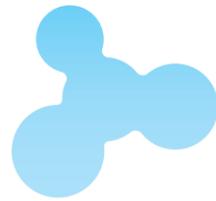
OB・OG MESSAGE

人についての研究が、今の仕事の原動力です。

凸版印刷株式会社 西日本事業本部 山上 佳織さん 2014年度卒業

食品をはじめとするパッケージ関連商材の企画営業をしています。ひとつのパッケージを作るにあたって、商品の品質を保つための構造や、店頭で陳列された際の商品の見え方などを日々夢中で考えています。文化情報学部では、人について不思議だと感じることを実験や調査を通して解明してきました。その経験から得た、課題を発見し、追究する力が今の自分に生きています。





データ科学基盤コース

研究対象 数理学・情報科学・統計科学の諸概念、データに関わる諸問題 etc.

数理・情報・統計の壁を越えた最先端のデータ科学研究を展開



Student's Voice

愛知県 滝高等学校出身
[4年次生]
統計科学研究室
本林 英和さん

講義や様々な学外イベントでデータ分析やプログラミングを実践

情報系に興味があり入学したところ、講義を受けるうちに、統計学の魅力に気づきました。講義で学んだ統計学を用いたデータ分析やプログラミングの知識を実践的な場で活かしたいという思いを先生に相談したところ、実際のビッグデータを分析するコンペや、プログラミングによる開発を競い合うハッカソンというイベントを紹介してもらいました。以来、様々なイベントに参加し、データ分析やプログラミングの技術を磨き上げ、文化情報学部卒の卒業研究に挑んでいます。また、文化情報学部の講義はグループワークが多いことも特徴の一つ。多様な人と議論をしながらプロジェクトを進めた経験によりプロジェクトマネジメントの能力が身についたと感じています。

文理両方の知識や感性を活かしIT業界の最先端で活躍したい

卒業研究では、WEBサービスにおけるユーザー行動について、実際のデータを基に分析を行いたいと考えています。現代社会においては、あらゆるところにデータが蓄積されています。その中でも、データ分析をいち早く活用しているITの業界において文化情報学部で身につけたデータサイエンスの技術的な知識と文化的教養を武器に、様々なビッグデータと向かい合っていきたいと思っています。データ分析のできるプロジェクトマネージャーとして、アナリストとユーザーとを結ぶ「ブリッジ人材」になることを意識しつつ、文化情報学部の後輩たちの研究活動のモチベーションを高められるような活躍をしていきたいと考えています。

大手IT企業に内定!!

本林さんが卒業研究テーマを決めるまで

詳細はホームページをCheck! >>> <http://www.cis.doshisha.ac.jp/course/foundationaldata/student/model/index.html>



1年次 データサイエンス基礎でデータ分析の面白さに気づく

	mon	tue	wed	thu	fri
1	文化情報学演習	コミュニケーション英語	数学入門		アナリティカルリーディング
2	トピックス	プログラミング基礎		人間と社会	データサイエンス基礎
3	確率・統計				データサイエンス演習
4	コロシアム	認知科学入門			
5			文化情報学入門		

2年次 データサイエンスを実践的に応用することを意識

	mon	tue	wed	thu	fri
1		イングリッシュワークショップ	文化情報学演習	離散数学	
2	定量的データ分析		データサイエンス		データベースシステム
3	定量的データ分析演習	社会調査演習	基礎イタリア語	イングリッシュセミナー	文化と認知
4		社会調査演習		社会調査入門	身体メディア論
5		論理と数理			トピックス

3年次 ジョイント・リサーチの講義で生のビッグデータを分析

	mon	tue	wed	thu	fri
1					
2	数学I	ジョイント・リサーチ			トピックス
3	身体認知論	経済学	数理統計	ヒューマンコンピュータインタラクション	
4	データハンドリング				基礎イタリア語
5		プログラミング応用			

[教員紹介]

研究分野 計算機科学、データ工学、図書館情報学

波多野 賢治 教授

人に役立つ情報を早くして正確に探し出すために必要となる検索エンジンに関わるさまざまな技術開発を行うために日々研究を行っています。



研究分野 数理生物学

川崎 廣吉 教授

外来種の生物がどのように侵入してその分布域を拡大していくかを、微分方程式という数学的道具を使って解析し、拡大の速度や侵入阻止の条件を明らかにしていきます。



研究分野 数理学、解析学、微分方程式

浦部 治一郎 教授

数学の基礎から応用まで、特に、データサイエンスの数理的な基礎を学びつつ、経済などの問題に微分方程式の理論を応用します。



研究分野 統計科学

宿久 洋 教授

大規模複雑なデータの解析について研究しています。新手法の開発や既存手法の性質についての理論的評価に興味があります。ビッグデータとよばれる多種多様な実データの解析も行っています。



研究分野 数理統計学、計量経済学

原 尚幸 准教授

自然現象・社会現象の複雑なメカニズムを、データを用いて解明するための方法論と、その実問題への応用の研究をしています。データ科学はこれからの時代に必須の技術です。



研究分野 計算機科学、離散最適化、アルゴリズム

深川 大路 助教

計算機によって解決できる問題の地平はますます広がっています。数学・プログラミング・大胆な発想力を武器に、計算機による問題解決能力の限界に挑戦しましょう。



研究分野 数理統計学

玉谷 充 助教(有期)

分析手法が確立されていないデータに対して新たな統計的手法を提案し、その手法の有用性を示すための理論展開や数値シミュレーションによる性能比較等を研究しています。



OB・OG MESSAGE

現場で感じる、データ分析のビジネスニーズ。

株式会社大和総研ビジネス・イノベーション 金融システム開発本部
北野 道春さん 2010年度卒業

学んだデータモデリングやプログラミング技術を活かし、SEとして金融システムの開発に携わっています。さらに、近年は金融業界でも蓄積したデータの活用策を探る試みが加速しており、大学・大学院での研究成果が評価され、データ分析の案件も手掛けるようになりました。実際に最先端のビジネスの現場に身を置いてみて、あらゆる業界でデータサイエンスのスキルが必要とされていること、今後ますます求められる学問であることを改めて実感しています。

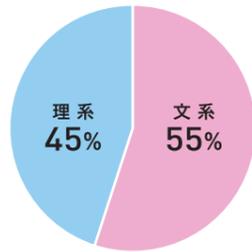


学部情報

文化情報学部についてのデータをまとめました。
学部生情報や進路情報などの数字から、入学後のイメージを膨らませてみてください。

在学生情報

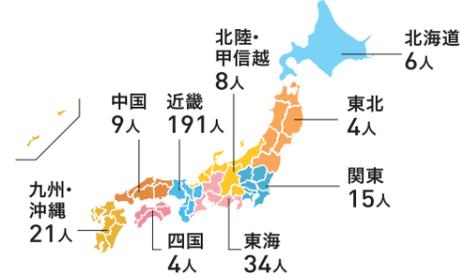
▶ 入試文理バランス [2016年度一般選抜入試]



文系型での入学者がやや多い

一般選抜入試では文系型・理系型の2種類の試験を用意していますが、毎年文系型での入学の方がやや多い結果となります。入学後は、文系出身の学生と理系出身の学生が共同で探求活動を行い、互いの得意分野を教え合うという、既存の学部では経験できない学びが可能になります。

▶ 学生の出身地 [2016年度入学者]

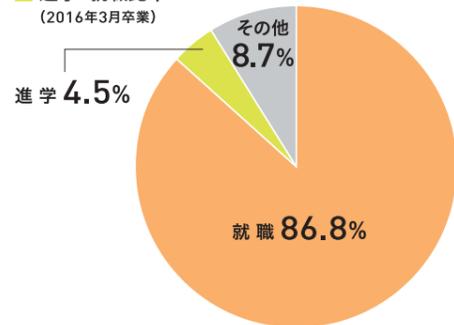


入学者は全国から集合

2016年度入学者の全国分布図です(留学生・海外出身者は除く)。同志社大学自体の特徴でもありますが、文化情報学部でも全国から入学者が集っています。いろいろな地方の学生と過ごす毎日は、きっと新たな発見に満ちたものになるでしょう。

進路情報

▶ 進学・就職比率 [2016年3月卒業]



進学実績

- 同志社大学大学院 文化情報学研究科
- 北海道大学大学院 文学研究科
- 東京工業大学大学院 社会理工学研究科
- 京都大学大学院 情報学研究科
- 京都大学経営管理大学院
- 大阪大学大学院 基礎工学研究科
- 大阪大学大学院 人間科学研究科
- 神戸大学大学院 医学研究科
- 奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科

就職実績

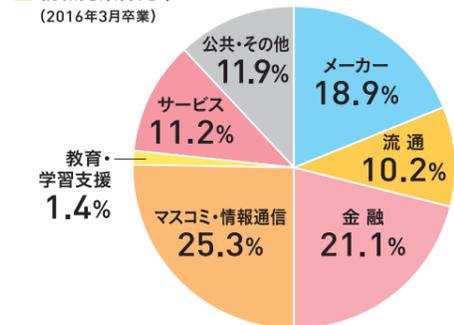
- みずほフィナンシャルグループ
- 株式会社三井住友銀行
- 株式会社三菱東京UFJ銀行
- 株式会社大和証券グループ本社
- 野村證券株式会社
- 住友生命保険相互会社
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 日本生命保険相互会社
- 三井住友海上火災保険株式会社
- 全日本空輸株式会社
- 日本航空株式会社
- 東日本旅客鉄道株式会社
- 株式会社朝日新聞社
- 日本放送協会
- 三菱商事株式会社
- 株式会社島津製作所
- ハウス食品株式会社
- パナソニック株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ
- 株式会社NTTドコモ
- 株式会社サイバーエージェント
- ソフトバンク株式会社
- 教員(大阪府)
- 国家公務員(一般職)
- 公務員(京都府、明石市、安芸市、池田市、京都市、堺市、高島市、高槻市、天理市、名古屋市、福山市、大和郡山市、京都府警察(警察官・警察事務等))

取得できる免許・資格

社会系と数学・情報系の教員免許が両方取得できるのは、同志社大学では文化情報学部のみ。社会調査士などの専門的な資格も取得できます。

- 教員免許・中学校教諭1種 数学 社会
- 高等学校教諭1種 数学 情報 地理・歴史 公民
- 小学校教諭1種*
- 社会調査士
- 博物館学芸員
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭

▶ 就職先業界比率 [2016年3月卒業]



学部間協定先

- 高麗大学 College of Political Science and Economics (韓国)
- 北京大学 School of Mathematical Sciences (中国)
- 中国人民大学 School of Statistics (中国)
- 淡江大学 College of Foreign Languages and Literatures (台湾)
- ニューオリンズ大学 Division of International Education (アメリカ)
- カールスルーエ工科大学 Department of Economics and Business Engineering (ドイツ)
- 湖南大学 College of Foreign Languages and International Studies (中国)
- デュッセルドルフ大学 Faculty of Arts and Humanities (ドイツ)
- 国立高雄大学 College of Humanities and Social Sciences (台湾)
- ハミルトン大学 Digital Humanities Initiatives (アメリカ)

施設・設備

最新の実験設備や専用施設を完備し、文化情報学部独自の学びをサポートする環境が整っています。

▶ 文献室



夢告館(学部棟)内にある学部独自の文献室。プログラミングや統計の専門書から文学作品、歴史書などの多種多様な図書・雑誌、卒業研究に欠かせない資料を多数所蔵しています。

▶ 実験室



視線の動きを計測する装置や近赤外光脳計測装置などを備えた実験室。複数の研究室が共同で使用します。

▶ 近赤外光脳計測装置



生体に安全な近赤外光を用いて血液量の変化を測定し、脳機能を「視覚化」する装置です。

▶ レーザーレンジファインダー



赤外線レーザーを照射し、対象物までの角度と距離を測定する機器。遺跡の調査などに使用します。

▶ X線分析装置



絵画や工芸品など文化財の材質分析に用いる装置。X線を照射し、成分を判定します。

▶ 茶道具



授業の中で茶道や華道などの伝統文化に触れる機会も設けており、茶道具も一式そろっています。

▶ 長沢盧雪『一笑図』



竹冠に犬と書き「笑」で、この吉祥画題を一笑図と呼びます。盧雪の死は謎で不穏な空気がつきまとう。ゆえに本図の無垢さが際立つのです。(撮影:金井杜道)

入試情報

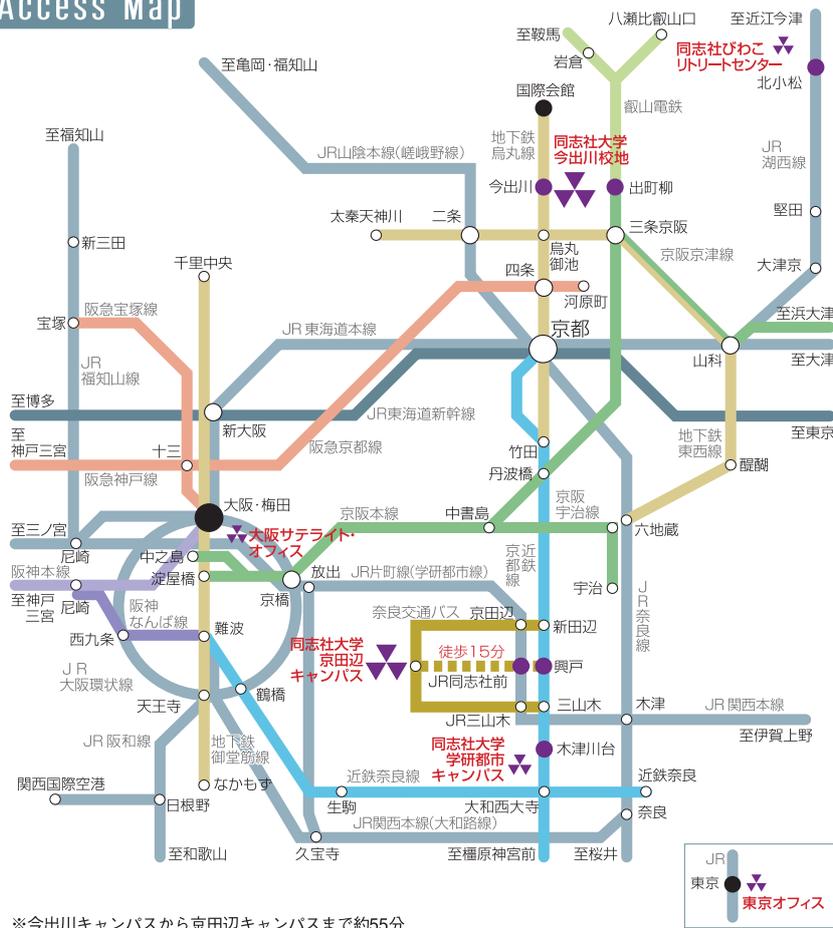
文系型・理系型のどちらでも受験可能な一般入試をはじめ、多岐にわたる入試方法を用意しています。推薦選抜入試では論理・数理解能力や表現力を問う小論文を課しています。

【入試内容】2016年度例

一般選抜入試 学力検査で選抜する入試です。 文系型、理系型の2種類があります。	文系型 全学部日程 個別日程 外国語(200点) / 国語(150点) / 地理歴史または公民または数学(150点)
	理系型 全学部日程 個別日程 外国語(200点) / 理科(150点) / 数学(200点)
センター利用入試 [30名] 個別学力検査を課すA方式とセンター入試結果のみで選抜するB方式があります。*一般入試との併願可能	A方式(20名) 大学入試センター試験 + 個別学力検査(英語・数学)
	B方式(10名) 大学入試センター試験のみ
推薦選抜入試(公募制) [10名]	筆記試験(小論文)及び面接を実施。出願書類も含めて総合的に判断し合格者を選抜します。 小論文 論理・数理解能力を問うもの1問、表現力を問うもの1問 面接 勉学への意欲、社会常識、出願資格を確認
アドミッションズ・オフィス方式による入学者選抜(AO入試) [10名]	文化情報学部で学びたいという強い意志を持ち、かつ学力試験では計れない多様な能力、大きな可能性を秘めている学生を積極的に迎え入れる選抜方式です。
第3年次転入学・編入学試験	大学2年次修了者、短期大学卒業生、高等専門学校卒業生、専修学校卒業生が3年次に編入学できる入学制度です。学力試験(英語・数学)と面接によって選考を行います。

詳細は、『同志社大学入試ガイド』、本学WEBサイト http://www.doshisha.ac.jp/admissions_undergrad/entrance_exam.html などをご参照ください。

Access Map



夢告館…文化情報学部棟



同志社大学 文化情報学部

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
 TEL : 0774-65-7610 FAX : 0774-65-7618
 E-mail : jt-bnkjm@mail.doshisha.ac.jp
<http://www.cis.doshisha.ac.jp>